



19宗建 第 31号  
平成19年4月27日

国土交通省道路局長 様

宗像市長 谷 井 博 美



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について (回答)

標記の件について下記のとおり回答させていただきます。

\*広域化に対応した幹線道路の整備

本市は、福岡市、北九州市の両政令都市の中間に位置し、三方を山に囲まれ一方は玄界灘に面し、豊かな自然環境と住宅都市との調和が取れた街を形成しています。

昭和56年に市制施行し、平成15年4月に旧宗像市と旧玄海町が合併し、平成17年3月に旧大島村と合併が行われました。

市域の道路交通網は、東西軸が国道3号とその北側を走る旧国道3号および国道495号によって骨格が形成されており、南北軸は主要地方道宗像若宮線や宗像篠栗線など数本の県道で形成されています。自動車の普及や交通網の発達によって、人々の生活圏域は市域を越えて拡大しています。また、経済面でも物流など産業活動の広域化が進み、近年、宗像市内においても、交通渋滞が深刻化し、市民生活にも影響がでてきています。

特に、国道3号の光岡交差点周辺を中心とする渋滞は、日増しに悪化してきており、対応策の検討・実施が喫緊の課題と認識しています。

このようなことから、北部九州の幹線である国道3号を現在の4車線から6車線化への取り組みを、お願いするところです。

\*人にやさしいまちづくりの道路整備

自動車など利用できない人の立場に立ち、バス、JRなど公共交通機関の利便性を高めるため、市域内の幹線道路整備を図り、さらに歩行者、自転車の交通バリアフリー化に努めて、人口減少に伴う少子高齢化に対応した安心して暮らせるまちづくりの道路整備を推進するためにも、国の支援を願うものです。

#### \* 広域合併に向けての道路整備

現在、宗像市では広域合併を含め、市町村のあり方の検討を重ねています。近年、経済や人の交流など近隣地域との連携を重要視しています。また、国や地方においても道州制の論議が盛んに行われ、広域行政のあり方も変革されようとしています。

このようなことから、地域連携に最も重要であるインフラとして、道路整備の立ち遅れが懸念され、地域を結ぶ連絡道路の整備が地域連携の観点から急がれていますので、なお一層の助成をお願いするものであります。